

令和6年5月1日

登録試験機関

公益財団法人原子力安全技術センター

令和5年度 第2種放射線取扱主任者試験における問題の誤りについて

「放射性同位元素等の規制に関する法律」第35条の規定に基づき、令和5年8月25日に実施した第2種放射線取扱主任者試験において、試験課目「化学」の問8の問題に誤りがありました。詳細は別紙のとおりです。

このため、当該問題については受験者全員を正解とすることとし、再度採点を行った結果、新たに4名を合格とし、このことを原子力規制委員会に報告しました。

新たに合格となった方には、既に今回の経緯を説明し終えており、今後も細やかな対応を図る所存です。

なお、新たに合格された方については、本日、当センターホームページにて合格者の受験番号を掲載しました。官報による合格者氏名の公告は令和6年5月下旬頃を予定しています。

(公財)原子力安全技術センターホームページアドレス [<https://www.nustec.or.jp/>]

今回の事案により、受験者の皆様をはじめ、関係者の皆様に多大なご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。今後このような事態の再発を防止するため、原因を究明するとともに、より一層チェックの強化を図る所存です。

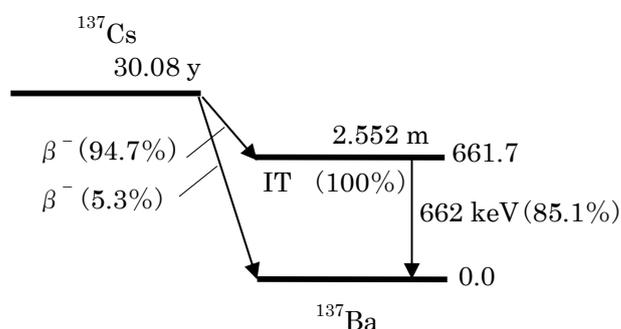
以上

問い合わせ先

公益財団法人原子力安全技術センター
放射線安全センター主任者試験グループ
高橋 澄人
TEL 03-3814-7480

令和5年度 放射線取扱主任者試験
第2種 化学
化学のうち放射線に関する課目

問8 次の記述のうち、壊変図式からわかる正しいものの組合せはどれか。なお、 ^{137}Cs 密封線源は製造から十分時間が経過しているものとする。



- A ^{137}Cs の半減期は30.08年である。
B ^{137}Cs 密封線源では、 ^{137}Cs と ^{137}Ba は永続平衡の状態となっている。
C ^{137}Cs 密封線源中での ^{137}Cs と $^{137\text{m}}\text{Ba}$ の原子数は同じである。
D ^{137}Cs の壊変過程における662 keV γ 線の放出割合は80.6%である。

- 1 AとC 2 AとD 3 BとC 4 BとD 5 CとD

当該問題は「2 AとD」を正答としておりましたが、Dの記述「 ^{137}Cs の壊変過程における662 keV γ 線の放出割合は80.6%である。」の80.6%は誤りであったために正答なしとなりました。